

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和 2 年 2 月 25 日 (火) 17 時 00 分
場 所	知事応接室
出席者	知事、3 副知事、教育長、担当者
内 容	現状(道内において陽性者が増加傾向にあり、教育関係者の陽性者が発生)を踏まえ、学校(小中高)の休業の要請について協議し、本部会議に諮ることとした。
発言者 及び主な 発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21 日に児童 2 人の感染が判明し、その後、相次いで学校関係者への感染が確認され、保護者などから不安の声が上がっている。 ○後手後手の対策ではなく、今やるべきことをやる。 ○親等の不安を解消するため、学校を休校し、消毒してはどうか。 ○先生の健康状態についてもこれからは検温等を行うにせよ、これまでの状態についても、今一度振り返ってチェックすることが必要ではないか。 ・施設の消毒や毎朝の検温を徹底し、「学校は安全」ということを理解してもらう必要がある。 ・文科省から教育委員会に「都道府県等は公衆衛生対策の観点からの休業の必要性の有無について判断し、必要な場合、学校の全部又は一部の臨時休業を要請する」との通知があったが、市町村単位であり、道全体は想定していない。 ・感染症の啓発のための授業と休みの日に一斉清掃するという取組も考えている。 ○啓発だけではなく、実効性の高い取組を進めるべき。 ・休校が世の中に与えるマイナスのメッセージを勘案するべき。 ・感染拡大防止という観点からは、学校を休校することにどのような意味があるのか。 ○感染症対策という点では、児童、生徒、保護者に新型コロナウイルス感染症を正しく理解してもらう機会も重要ではないか。子どもが学んだことを家に帰って親に話すことが多いが、そうすることで保護者の学習にもつながる。 ○休校することにより、一日間でもよいので1度リセットする必要がある。 <p style="text-align: right;">以上</p>

※(知事○、その他・)

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和 2 年 2 月 26 日 (水) 11 時 20 分
場 所	知事室
出 席 者	知事、3 副知事、教育長、担当者
内 容	学校の休業要請の期間を一週間とすることについて協議した。
発 言 者 及び主な 発言内容	<p>○休校が長期間に及ぶと保護者の負担が大きい。保護者の負担を考慮しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休校の期間は春休みの先取りで1週間という考え方ではどうか。 ・学校における準備も整わないが、インフルエンザの流行で6日間の学校閉鎖の事例があることから、1週間程度であれば対応が可能である。 <p>○道内の感染状況を踏まえるとすぐにでも対応した方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休業期間を 1 週間とし、全道の小中学校を休校とすることについて市町村、市町村教育委員会に要請することとしたい。 <p>○児童生徒には、家にいて欲しいというメッセージもセットで出す必要がある。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

※（知事○、その他・）

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和2年2月27日(木) 17時30分
場 所	知事室
出席者	知事、3副知事、担当者
内 容	道内の発生状況を踏まえ、都市間移動が増加する週末に何らかのメッセージを道民に伝えることについて協議した。
発言者及び主な発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道内の感染状況は、当初とは明らかに異なっており、早期終息のためには、この1~2週間がきわめて重要と言われている。 ・学校だけではなく、この1~2週間が肝心だと言われている。 ○ベッドの上限を超える、マンパワーの上限を超える事態の想定が必要ではないか。 ・保健師も不足している。陽性者を全て受け入れるには病床が足りないおそれあり。 ○この緊迫感を示したい。国に対しても要請を行う。 ○緊急事態宣言、非常事態宣言といったようにこれまでとフェーズを変えるということが必要ではないか。 <p style="text-align: right;">以上</p>

※(知事○、その他・)

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和2年2月28日(金) 11時00分
場 所	指揮室
出席者	出席者 知事、3副知事、担当者
内 容	緊急事態宣言のメッセージ内容について協議した。
発言者 及び主な 発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日、道内で2桁の感染者が確認された。 ・国では、北海道から全国に感染が拡大することを懸念する声もある。 ・感染の急激な拡大により、医療崩壊といった状態につながることを避けなければならない。 ・政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議のメンバーから次のとおり指摘があった。 <ul style="list-style-type: none"> →札幌以外の遠隔地の患者が多く、若年層の症状の軽い人が感染を地方に運んでいる可能性がある。 →この1~2週間で人の接触を可能な限り控えるなど、積極的な対応を行えば、急速に収束させることができるが、対策を取らなければ、道全体で急速に感染が拡大しかねない。 ○経済的な影響を最小限にしなければならないが、まずは、道民の命と健康を守ることが第一である。一方、一日も早くこの問題を終息させることが、暮らしへの影響を最小にすることにつながる。これまで経験のない思い切った対策が必要。 ○感染を収束させるためには、人と人の接触を避けることが求められており、次の段階に移行させるべき。何らかの強いメッセージが必要ではないか。外出を控えて欲しいなど。 ・平日は出勤せざるを得ず、外出するなどは言えないのではないか。強いメッセージは週末に限った方がよいのではないか。 ○道民との危機感を共有する必要がある。 ○新型コロナウイルス緊急事態宣言として打ち出すこととしたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>

※(知事〇、その他・)

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和 2 年 2 月 28 日 (金) 15 時 00 分
場 所	指揮室
出 席 者	出席者 知事、3 副知事、担当者
内 容	<p>次の事項について協議し、本部会議に諮ることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緊急事態宣言」の内容及び道民への説明内容 ・週末における外出自粛要請について
発 言 者 及び主な 発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本日、2 日間連続で 2 桁の感染者が確認された。全道に感染が広がっている可能性がある。 ○やるべきことは全てやるというスタンスで臨む。道民の底力で感染拡大をストップする。 ・都市部と地域間の人の移動によって感染が拡大している可能性がある。 ○北海道は危機的な状況にあることを伝える必要がある。 ○この週末は極めて重要な時期であり、行動で実践する必要がある。道民に対して外出の自粛をお願いという形で行う。 ・外出自粛等の要請期間は、感染拡大防止の観点から、ウイルスの潜伏期間の 2 週間に加え、要請の効果や影響の分析等に必要な時間も、相当程度、必要である。 ○必要最小限とするため、分析等の期間を 1 週間とし、総じて 3 週間とする。 ○全国に感染が拡大する恐れもある。いろいろな対策を北海道で国と連携しながら取り組んでいく必要がある。宣言後、速やかに総理との面談をお願いし、そうした内容を要請する。 <p style="text-align: right;">以上</p>

※（知事〇、その他・）

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和 2 年 3 月 16 日 (月) 15 時 15 分
場 所	指揮室
出 席 者	知事、3 副知事、担当者
内 容	次の事項について協議した。 <ul style="list-style-type: none"> ・現状と今後の方向性について ・感染拡大防止と社会経済活動のバランスを取る北海道モデルの構築について
発 言 者 及び主な 発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者の数はピーク時に比べれば減少しており、特に札幌市以外において落ち着いてきている。札幌市の状況は厳しいが、他地域の集団感染の拡大防止、いわゆるクラスター対策は奏功している。 ・道民の意識と行動が変化して、総体的な感染予防力が上がっている。 <p>○道民の努力に対してまずは感謝。一方、元のレベルに戻ると同じ状況になる。週末のみならず、毎日行動を実践する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激な感染拡大は抑えられ、医療崩壊の状態にはないが、行動を続けないと病床が不足する。 <p>○イベントの自粛や道立施設の休止などについて、3月中は従前の対応を継続し、学校は徹底した防止策をとった上で分散登校を実施してはどうか。新学期から再開の方向ではないか。</p> <p>○強制ではなく、道民や事業者をはじめ全道一丸となった協働型のモデルで外出などを控えるよう道民等をお願いする。感染拡大防止と社会経済活動のバランスを取る北海道モデルを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで週末前の木曜日に週末の取扱いをお知らせしてきた中で、政府の専門家会議の見解がいつ示されるか明らかでないが、仮に 19 日に示され、それを踏まえて 3 連休の取扱いを示すとなると遅くはないか。 <p>○道として、特に、3 連休については影響が大きいこともあり、緊急事態を宣言したのであれば、専門家会議が公式に判断を出す前であっても、道として総括すべきではないか。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

※（知事○、その他・）

コロナ対策打ち合わせ 記録

日 時	令和2年3月18日(水) 10時00分、16時15分
場 所	指揮室
出席者	知事、3副知事、担当者
内 容	緊急事態宣言の終了について協議し、本部会議に諮ることとした。
発言者及び主な発言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況については、3月以降、新規感染者、リンク不明の感染者ともに減少傾向となっており、当初懸念されていた爆発的な感染拡大と医療崩壊による、道民の命や健康と暮らしを守れないといった状況は回避されたと考えられる。 ・世界的なトレンドを見ると、感染は今月中には収束しない。 ○解消するものではない点は道民に伝えるべき。 ○昨日、政府の専門家会議メンバーと電話で話をした。 <ul style="list-style-type: none"> →北海道は爆発的な増加を避けることができたと評価。 →患者発生数、クラスター対策は数字として結果が出ている。実効再生産数は精査・調整中であるが、明日 3/19 に開催が予定されている専門家会議の見解も 2月28日の状況とは異なっているとの評価となるのではないか。 ○国の感染者数は2月末と今では大きく違う。世界の感染も欧州が中心となっており、世界の感染状況が日本全体に影響を及ぼしていることなどから、地域的な対応のみでは収束には難しい面があり、長期戦に臨むことになる。 ○緊急事態宣言により社会経済活動へ大きな影響が出ている。こうした影響への対応は必要。 ・医療崩壊を起こすような急激な患者の増加は生じておらず、一方、緊急事態宣言の期間中に、検査体制や病床の確保など必要な体制の強化を図ることができた。 ○コロナと戦う体制は準備できた。 ○緊急事態宣言によって道民の行動様式が変わった。協力してくれた道民に感謝。 ○感染拡大防止の取組を行いつつ社会経済活動を行う社会、北海道モデルを作り上げることが必要。リスクを避ける取組から、リスクを低減する取組を北海道全体で進める。 ○感染拡大防止と社会経済活動の両立という新たなステージに移行するというメッセージを発信する。 <p style="text-align: right;">以上</p>

※(知事○、その他・)